

新型コロナウイルス 感染症への対応

新型コロナウイルス感染症（以下、本感染症）の世界的流行により、市民生活や経済活動に広く甚大な影響が生じている状況を踏まえ、SMBCグループでは、お客さまや従業員の健康と安全の確保を徹底するとともに、金融サービスの円滑なご提供を通じたお客さまの支援や、医学・医療関係機関の支援をはじめとする地域・社会への貢献活動に、グループ一丸となって取り組んでいます。

お客さま

金融サービスの提供を通じたお客さまの支援

SMBCグループは、個人のお客さまの生活を支えるご融資・決済サービスや法人のお客さまの事業継続等、社会のインフラとして金融機関に求められるサービスを滞ることなく提供することを第一にした対応を進めています。たとえば、三井住友銀行では十分な安全措置を講じた上で、すべての支店・ATMの営業を継続しているほか、ご来店することなくさまざまな取引が行えるよう、各種オンラインサービスの充実を図っています。2020年4月の個人のお客さまのインターネットバンキングサービスの取引者数は、前年比で36%増加しました。また、お客さまの資金繰りを支えるため、個人・法人いずれのお客さまに対しても、通常より金利水準を抑えた貸出や返済期間の延長等、柔軟な対応を行っています。これらに加え、医療関連のベンチャー企業等をサポートする新たな投資ファンドの立ち上げ、ベンチャー企業のプロモーション支援等を目的とする短期ピッチコンテスト「SMBCスタートアップ支援プログラム」の開催、テレワークに関するサービスの費用を一部支援する中小企業向けの「テレワーク導入支援プログラム」の開始等、本感染症の拡大により顕在化した社会課題の解決に貢献すべく、さまざまな取組を行っています。



https://www.smgf.co.jp/covid_19/

新型コロナウイルス感染症拡大を受けたSMBCグループの取組について、当社ウェブサイトの特設ページを設置していますので、詳細はこちらをご覧ください。

従業員

感染拡大防止・金融サービスの継続的な提供に向けた取組

感染拡大を防止するとともに、お客さまの安全・安心を確保しながら、社会のインフラとして必要な業務を継続するためにも、SMBCグループの役職員およびその家族の健康を守ることが重要であり、国内外においてさまざまな取組を行っています。

お客さまの窓口となる営業拠点においては、飛沫感染防止用のアクリル板を設置する等の感染防止対策を行っているほか、コールセンターや事務・決済処理を行う拠点では、従業員を2チーム以上に分ける「スプリット・オペレーション」を行いながら、業務に継続的に取り組めるよう努めています。緊急事態宣言下では、グループ各社において、円滑な業務継続のために出勤せざるを得ない従業員を除き、原則在宅勤務または自宅待機とする等、雇用および給与は維持した上で、可能な限り出勤者を抑制しました。併せて、従業員の日々の健康状態の把握に努めながら、育児が必要となった従業員等に対するテレワーク・特別休暇取得の推奨や妊娠している従業員への特別有給休暇の付与、専門家によるメンタルヘルスを含めた健康相談窓口の設置等、従業員およびその家族の健康管理にも配慮しています。

地域・社会

地域・社会への貢献

SMBCグループでは、本感染症対策として総額15億円の寄付のほか、お客さまとともに取り組む支援活動を行っています。

医学研究・医療活動に対する支援

本感染症をはじめとする、新たな感染症に対する有効な治療法確立に向けたウイルスの挙動や特性を解明する研究を支援するために、「京都大学iPS細胞研究所」に5億円の寄付を行っています。この寄付は、同所が自治体・病院・研究機関と連携して実施する本感染症に関する大規模な疫学調査等に役立てられています。

新興国における医療・教育の充実に対する支援

本感染症への対応を含めた、新興国における医療・教育体制の充実に対する貢献活動の一環として、「日本ユニセフ協会」に1億円を寄付しました。本件寄付を通じて、当社のグループ会社であるBTPNが事業を行うインドネシアにおいて、医療体制の整備等に貢献していきます。

文化・芸術の振興に対する支援

本感染症の拡大により、豊かな社会に欠かすことができない文化・芸術活動にもさまざまな影響が生じています。そのため、文化・芸術の振興に対する貢献活動の一環として、全国37のオーケストラ団体を支援するために、「公益社団法人日本オーケストラ連盟」に1億円を寄付しました。支援先のオーケストラとともに、音楽を通じて人々に安らぎと勇気を与える企画を進めていきます。

「SMBC at HOME」プロジェクトを実施

お客さまが社会貢献に参画できる取組として、三井住友銀行が提供するインターネットバンキングサービスの対象取引を行った個人および法人のお客さまの数に応じて本感染症対策に関する寄付を行う「SMBC at HOME」プロジェクトを実施しています。



京都大学iPS細胞研究所へのSMBCグループからの寄付について

新型コロナウイルス感染症の早期終息に向けて

新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ続いており、一刻も早いワクチンや治療薬の開発が望まれます。しかしながらこれらの開発には時間を要するため、本感染症との闘いは持久戦であると考えています。

このような状況下、SMBCグループから京都大学iPS細胞研究所に対する機器の寄贈のお申し出をいただきました。おかげさまで、地方自治体や研究機関との連携等、早期にさまざまな研究を開始することが可能となり、貴社のご支援に厚く御礼を申し上げます。本感染症の早期終息に向けて、SMBCグループをはじめ、多くの企業や個人が「今できること」に取り組まれていることを大変心強く感じております。

治療法の確立に向けては、ウイルスの挙動や特性を把握することが重要です。私たちも関連諸機関と連携しつつ、iPS細胞を活用した研究を通じて貢献してまいります。

一致団結し、自分を、周囲の大切な人を、社会を守りましょう。



京都大学iPS細胞研究所 所長

山中 伸弥